

平成 21 年 3 月 31 日現在

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2006～2009

課題番号：18380027

研究課題名（和文） 大極殿院の思想と文化に関する研究

研究課題名（英文） A Study on the thought and the culture of the Imperial Audience hall of State Compound

研究代表者

内田 和伸（UCHIDA KAZUNOBU）

独立行政法人国立文化財機構 奈良文化財研究所・文化遺産部・景観研究室長

研究者番号：30249974

研究分野：農学

科研費の分科・細目：農学・園芸学・造園学

キーワード：平城宮 大極殿 大極殿院 遺跡整備 活用 設計思想

1. 研究計画の概要

平城宮の中核施設、第一次大極殿を中心にその設計思想や背景にある文化を明らかにする。その成果を来春復原工事が完了する大極殿において、活用するとともに、遺跡の活用プログラムを開発する。

2. 研究の進捗状況

中国での宮殿の設計思想に関する研究も近年行われ、それらを取り入れるとともに、日本古代における天の思想や儒教思想などの関連を明らかにしつつ、大極殿の設計思想の理解が深められつつある。

具体的には、宮殿の建物配置や施設の形態が天文に擬えるというものと、大極殿の前庭の地割りの計画寸法に儒教的に意味のある数字が使われること、経書によって庭の意味の解釈ができることなどである。さらに、記紀神話に記される内容が大極殿の庭や大極殿内に設置される高御座の意匠とも関わる可能性が高いと考えられるようになってきた。

このように古代に宮殿の庭については明確になっていきたが、各地の国庁の庭についても同様の分析が必要である。これについては発掘調査成果の集成により、検討できるものの情報を整理し、遺構編集図のないところでは遺構図の貼り合わせなどを行い、検討を進めることができる状態になった。

近代の大極殿跡については平安遷都 1100 年記念祭が契機となり、奈良、京都、長岡で保存顕彰が行われていることがわかっていく。

宮殿遺跡の空間の理解のために、当時行われた儀式や年中行事の再現プログラムを作

成している。射礼や騎射については古代の儀式の復原考察をし、プログラムの提案を遺跡学会誌において行っている。これらの研究が基礎となって平城遷都 1300 年記念事業では古代儀式の再現事業が行われる計画になっている。さらに射礼については 2009 年 5 月の平城遷都祭においても行われることとなり、実際に行われる再現事業の効果と問題点についても把握し、いかにプログラムの充実を図るかが課題となる。

宮殿における儀式の再現プログラムについては、韓国景福宮などで行われており、実施主体の研究者との交流や比較研究を行っている。

3. 現在までの達成度

おおむね順調に進展している。

(理由)

古代の宮殿に関する設計思想については九割方達成している。平城宮第一次大極殿院での遺構の解釈や高御座の復原研究を進め、この 1 年は深化することができた。発掘調査を含む中国での太極殿の研究の現状を調べ、近代の大極殿に対する認識や宮殿遺跡の顕彰など、詳細な史料の検討も必要である。

その他の研究についても進展しており、順調である。

4. 今後の研究の推進方策

大正期の高御座（現存）の設計思想を明らかにしたいと思っている。ただし、宮内庁の協力が必要である。

また、古代の官衙における建物配置などの儒教的秩序がどれだけ読み解けるか、検討したい。さらに、近代の大極殿跡に関しては時

代背景などの分析が必要である。

今後は 20 年度末に分担者になってもらった研究者の協力を得て、中国洛陽での最新の発掘調査の成果などを取り入れ、比較研究の材料としたい。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計3件)

内田和伸「平城京松林苑の保存と風致」
『遺跡学研究』5 巻 p177-188 日本遺跡学会 2008 査読有り

内田和伸「平城宮第一次大極殿院と朝堂院の設計思想について」『ランドスケープ研究』第70巻第5号 p377-380 日本造園学会 2007 査読有り

内田和伸「宇宙を象る宮殿」『東アジアの古代文化』2006 年夏号 大和書房 2006 p99-127 査読有り

[学会発表](計1件)

内田和伸「藤原宮の儀式・政治空間としての庭」日本庭園学会 2009.2.8 けいはんな記念公園ビジターセンター

[図書](計1件)

内田和伸「平城宮第一次大極殿院と高御座の設計思想」『古代日本の構造と原理』青木書店 2008 p.189-275 (総頁数 350)